

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

青木さんの紹介で執筆させていただきます。私は、大学院の修士課程で鋼構造に関する研究室に所属しておりました、その流れで大阪本社の鋼橋メーカーに就職、その後、数社にて東京や大阪等で設計のセクションを中心に勤務しました。よって「鋼橋の設計」が約30年間一貫して駆け抜けてきた私の専門です。現職の建設コンサルタントには6年ほど前から勤務になります。

新人として仕事を始めた当時は、「橋」と言えば川に架かっているものという印象を強く思っておりましたが、担当工事の多くは「都市高速道路」、複雑な道路線形や鋼製の橋脚、何層にも重なる橋の姿を目の前に、北海道の田舎で生まれて育った私にとっては良い意味で期待を裏切り、橋の概念が一転しました、そして鋼橋の難しさや奥深さを知り、それが今まで続けているモチベーションになっています。現在は、時代の流れもありメンテナンスや点検といった仕事を中心ですが、北海道に戻り、おかげさまで川に架かる橋も多く携わる事ができています。

技術士は鋼橋メーカー勤務時代の2002年に取得しました。受験のきっかけは、当時、図面右下のタイトル欄に責任ある立場の技術者が押印する欄があり、自分の印鑑をそこに押せるようになりたかった(かっこいい)という、今思えば浅い思いだったかもしれません。優秀な諸先輩方の温かいアドバイスにより合格でき、また、比較的若い年齢で取得できた事もあり、責任ある立場として多くの仕事を経験し実績も積むことができました。今は、時代も変わり、技術士の求められる役割も変わって来ておりますが、多くの助言を与えてくれた方々への感謝の気持ちは変わらずに持ち続けようと思っています。

高松 潤 (たかまつ じゅん)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 北未来技研



→次号は、照井一樹さん(建設部門)

大学生だった頃、外部講師の方が「技術士とは何か」と、いつもお話されており、その頃から科学技術の最高峰資格であり、全ての技術者が目指すべきものと漠然と捉えていました。

北海道庁入庁後間もなくは「技術士を取得するぞ!」と意気込んでいましたが、年々増す発注・監督業務や関係機関協議資料作成などで日々を忙殺され、そのうち「公務員が技術士を取得する意味は?」と思うこともしばしば・・・いつの間にか当初の意気込みはどこへやら・・・。

時は流れ、7年ほど前から道庁技術士会による資格取得のためのサポート体制が始まり、再び目指す大変良い機会に巡り合いました。先輩技術士の指導のもと本格的に目指す中で、通常の業務ではほぼ意識しない国交省の施策を学ぶうちに、変わったのは仕事に対する向き合い方です。税金を使って事業をしていると常に働くコスト意識“ムダなことは出来ない”が、いつの頃か“出来ない”に変わってしまい無意識に制限を掛けていたような気がします。施策を学ぶうちに“出来ない”から“やらなくては行けない”に変化し、今まで躊躇していたことも思い切りかつ大胆に考えられるようになりました。「雁字搦めだった仕事は、もっと自由度があって楽しい仕事なんだ!」と、考えを前向きにすることができたことが、今振り返るととても良かったことです。また、ステークホルダーとの利害関係調整、限りある資源のマネジメントなど技術士に必要なコンピテンシーは、むしろ公務員技術者にとって非常に重要な能力であり、技術士を目指すモチベーションになりました。

これからも自己研鑽を欠かさず、仕事が楽しくなった自分の体験を後進へ伝えていきたいです。

池田 貴大 (いけだ たかひろ)

●建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

胆振総合振興局室蘭建設管理部



→次号は、井田卓朗さん(建設部門)